

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

| | | | | | | | | |
|-------|--|-----|------------|--|-------|---------|------|-------------|
| 科目No. | 157 | 科目名 | 化学物質総合管理法2 | | サブネーム | 職場の安全衛生 | | |
| 共催機関名 | | レベル | 中級 | | 講義枠 | 金曜日 | 講義時間 | 18:30~20:00 |
| 科目概要 | 職場における化学物質管理は、事故や職業病などの経験や知識が基になっている。新規化学物質の登場、生産工程の多様化、さらに化学物質管理における世界の潮流は我が国の従来システムの変更をせまっている。本科目では、その現状を理解し将来像を論ずる。 | | | | | | | |

| サブタイトル | 講義名 | 講義概要 | 講義日 | 教室 | 講師名 | 所属 |
|-----------------|--------------------------------|--|--------|--------|-------|----------------------|
| 職場における化学物質管理の基礎 | 1 化学物質による労働災害・職業病の歴史 | 労働災害・職業病の歴史(特に化学物質)とこれに対応した法整備の過程などについて講義する。講義全体の趣旨および概要も解説する。 | 9月2日 | 1号館301 | 城内 博 | 日本大学、大学院理工学研究科 |
| | 2 化学物質の危険有害性分類 | 化学物質管理はその危険有害性の種類や重大性を勘案して行われるが、この基になる危険有害性の分類は各国、あるいは各省庁間で統一されていない。国連GHS勧告により、危険有害性の分類が統一され健康や環境の維持に役立つことが期待される。GHS勧告と法規制を比較しながら危険有害性の分類について概説する。 | 9月9日 | | | |
| | 3 危険有害性情報の伝達 | 危険有害性に関する情報をそれを取扱う人へ伝達することは、化学物質管理の第一歩である。GHSは情報内容と伝達方法を統一し、化学物質管理の促進をはかるものである。GHSシステムと現行システムを比較しながらよりよい危険有害性情報システムについて考察する。 | 9月16日 | | | |
| | 4 リスク管理のための基礎知識 | 化学物質による労働災害のリスク管理を行うために必要な基本的知識である。量 影響関係、量-反応関係、ばく露限界値、管理濃度などについて解説する。 | 9月30日 | | | |
| | 5 リスク管理の実際と課題 | 実際に我が国で行われているリスク管理について解説し、その問題点さらに今後の課題について考察する。 | 10月7日 | | | |
| 行政、法律の役割 | 6 労働安全衛生法の考え方、職場における化学物質管理の考え方 | 規則に基づく化学物質管理と事業者自らがリスク評価を行い、評価結果に基づき対策を講じる自律的な管理及び労働安全衛生法令に基づく安全衛生管理体制などについて解説する。 | 10月14日 | 1号館304 | 零 文男 | 労働情報館 |
| | 7 労働安全衛生法令に基づく化学物質管理等() | 有機溶剤中毒予防規則、特定化学物質等中毒予防規則、鉛中毒予防規則等の特別規則による管理について、その役割、具体的な内容等について解説する。 | 10月21日 | | | |
| | 8 労働安全衛生法令に基づく化学物質管理等() | 粉じん障害防止規則、酸欠則等、並びに労働安全衛生規則の包括的な労働衛生基準及び爆発・火災防止の安全基準について、その役割、具体的な内容等について解説する。 | 10月28日 | | | |
| | 9 作業環境測定及び化学物質の有害性調査 | 労働安全衛生法令に基づく有害性調査、GLP制度、調査結果に基づく措置(指針等)について、考え方等について講義する。また、労働安全衛生法令に基づく作業測定について、場の管理の考え方等とともに、制度の概要等について解説する。 | 11月4日 | | | |
| | 10 労働安全衛生マネジメントシステム | 労働安全衛生マネジメントシステムの役割、その内容等について、ILO、ISO等の状況も含めて解説する。 | 11月18日 | | | |
| 企業の自主的取組 | 11 事業場における自律的な化学物質管理 | 事業場における自律的な化学物質管理について、個々の企業での具体的な取り組み事例、業界団体での取り組みなどを踏まえて、その役割、課題などについて解説する。 | 11月25日 | 1号館301 | 武田 繁夫 | 三菱化学、鹿島事業所 |
| | 12 安全管理について | 化学物質による火災、爆発などのリスク評価方法とリスク対策について、労働安全衛生法以外の関連法規や事業場独自の活動などについて解説する。 | 12月2日 | | 浜田 哲夫 | 浜田労働安全コンサルタント・技術士事務所 |
| | 13 健康リスクの評価と対策 | 労働者の化学物質ばく露状況の測定・評価方法や、化学物質の健康リスクの評価方法とリスク対策の考え方などについて解説する。 | 12月9日 | | 武田 繁夫 | 三菱化学、鹿島事業所 |
| | 14 健康状態の評価と対応 | 化学物質を製造・取り扱う人に対して行う特殊健康診断や有害業務の健康診断と適正配置、事後措置、法規制のない化学物質の健康管理の考え方などについて解説する。 | 12月16日 | | | |
| | 15 ばく露防止対策 | 化学物質を取り扱う際に利用する呼吸用保護具、化学防護手袋、化学防護衣などの保護具や、作業規程類の整備、従事者への教育など、化学物質のばく露対策について解説する。 | 1月13日 | | | |